

会議の概要

会議名	第2回宝塚市民文化芸術振興会議
開催日時	平成30年2月27日(火) 10:00~13:00
開催場所	宝塚市立中央公民館 201・202学習室
出席委員	藤井委員 栗本委員 梅田委員 中辻委員 柳楽委員 秋津委員 阿部委員 石田委員
公開の可否	可
傍聴者	なし
議題及び結果の概要	<p>1 開会 会議の成立(宝塚市民文化芸術振興会議規則第5条第2項の規定により成立)</p> <p>2 意見交換 (1) 今年度の文化芸術振興にかかる新規・拡充事業について</p> <p>まず昨年12月にI期オープンをした中央公民館内を館長から案内事務局から、今年度の新規・拡充した取組について(資料1)説明</p> <p>委員：中央公民館について、きれいな新しい施設で、敷地スペースを活用して造られたことが推察される。せっかく出来た施設なので、市民への周知と、ここを活用して文化芸術への市民のモチベーションをあげるような意志を持ってすれば、単なる貸しスペースにならない運営の仕方がみえてくるのでは。そのなかで、公民館におけるホールの特別感がないのが残念。壁の色を白からダークな色にするだけでも特別感が出ると思う。</p> <p>委員：たからづかキッズのサイトリニューアルについて、具体的に利用者の声はあるか。参加者があがったか、など。</p> <p>事務局：各イベントで広報が何で知ったか等のアンケートを取るが、まだ始まったばかりなので集計ができていない。徐々にわかってくるものと思う。</p> <p>委員：コンサートでもお子様入場可や、親子向けのイベントサイトを見てきたという方がいるので、見易くなったのは良いことだ。続けてもらいたい。</p> <p>委員：自然とアートの秋フェスタについて、子ども対象となっているが、実際の来場者の層はどうだったか。</p> <p>事務局：多種多様なプログラムを組んだため、北高の参加型プログラムには小学生が中心、その他は子どもやファミリー層が主であった。</p>

委員：では、子ども対象にしたイベントとしては成功したということか。

事務局：今回は初めて、北高を始め、市内でも協力して横の連携を取ったイベントを行い、2,000名の来場者があったこと、天候に恵まれたこと、財団が同じ場所で定期的にイベントを開催し地ならしができていたこともあり、成功したと考えている。

委員：イベントをした3日間だけでなく、この場所がいつも週末に何かやっていて賑わっていることが定着していくとよい。その際シニア向け、幼稚園児向けなど手を変え品を変え、学習をしながら秋に向けて大きなイベントを組めるとより良い。

事務局：春はたからんまつりがあるので、今までの春に加え秋も実施したことになる。今後の課題としていきたい。

委員：チラシとして文字量が多すぎる。ポイントが明確にわかるデザインにした方がよい。広報は非常に重要。せっかく中身があるのにもったいない。デザイン次第で動員できる層も変わってくる。工夫が必要だと思う。

委員：市内の民間文化芸術施設の情報収集について、今情報を収集しているとのことだが、収集したものは発信をするのか。

事務局：紙媒体とインターネットの両方でしたいと思っている。

委員：京都では、フェイスブック上で京都アートマップという、複数の画廊が入っているグループがあり、自分のいった展示等の情報をアップしている。紙状ではマップを作り、自分たちの画廊の場所が示され、春と秋には回ってみられるようになっており、各画廊でマップが置いてある。収集した後の発信方法も考えるのがよい。

委員：情報は発信の仕方が大切。市民や市内の画廊の方の発信力を上手に活用して、市も発信しながら、全体として余力を掛けすぎずに、まとまって見られるものができればよい。

高校生美術部展について、場所や時期の問題もあるかもしれないが、少し寂しく感じた。広報の仕方も検討課題ではあるが、継続することは意味があると思う。新しい文化芸術施設にも繋げていければよい。

手話通訳者等の配置について、中央公民館の設備として聴覚障害の方には聞こえやすい磁気装置を設置している等も聞いたが、大きなイベントでは手話通訳者等の配置しかできないかもしれないが、小さなイベントでは先のようなシステムも使いながら、それに最適な音楽会やイベントが組める

と思うので、推進していただきたい。

## (2) 文化芸術施設について

事務局から文化芸術施設の進捗状況についての説明

- ・ 市民向け説明会の実施について
- ・ 文化芸術振興計画と文化芸術施設について
- ・ 意見交換テーマ (A) 施設開館へ向けた機運を高めるイベント  
(B) 市民サポーター制度 について

委員：私も説明会に参加した。施設開設に向け機運を高め、また理解を得るイベントや学ぶ場を考えていくとよい。参加して気になったのは、この計画に前向きな人、説明会に足も運ばない人、応援したいけど現状ではしづらいついて考えている人様々だが、100%理解してもらえなくとも、10年20年、50年後にこの施設ができてよかったねとなるためには、もう少しきめ細やかなコミュニケーションが必要であるように感じた。以前のこの会議も同様だが、行った議論に対してどのように市が受け止め、反映、検討されたのかが見えづらい。

委員：反対意見はどのようなものなのか。

事務局：今、市は行財政改革を行っている。この状況下で、文化芸術施設を建てなければいけないのか、といった意見がある。

委員：指定管理者が決まると、管理者の意向が強く反映してくると思う。市民サポーターにしても、市と指定管理者どちらの役割になるかでやることや管理システムが違ってくる。それらも含めて考えていかないといけない。大きな方向性が見えず、意見が言いにくい。

事務局：市民サポーターについては、どちらがするかで大きな分岐点になると思う。先日事業者の説明会をしながら、どういう形がやりやすいか意見をいただいた。各事業者が持っている事例も反映しながら進めていきたい。

委員：臨時で学芸員を募集していると思うが。

事務局：学芸員を1名募集して今、選考中だ。開設準備を担っていただける方を募集している。

委員：全体的な方向性として、市がこの空間をどうしたいか。市民の日常

の延長の場なのか、ハレの場、なのか。私なら後者を選ぶ。駐車スペースが少なく意見があると聞いたが、交通の便の良い場所であるし、公共交通機関を使用して来てもらいたいと強気で言い切ってもいいのではないか。宝塚市が腹をくくった指針を、かなり大胆なものを出してちょうどいいと思う。目玉企画を決めて、それが実現できる指定管理者を募集するくらいでよい。それをもっとスピード感を持ってしないといけない。強い意志と将来的ビジョンが必要。なぜ今かというところでは、今だからだと言える。2020年東京オリンピックの時には、必ず関西にも人が流れてくる。最近の留学生は日本に数年滞在し、大都市ではなく第2第3の日本での故郷を求めると聞く。そのような人の来るきっかけになったり、歌劇に来た人がもう1つ違った体験をできることになる。もし大阪万博が実現すればより色濃くなるだろう。

委員：東京オリンピックに合わせるなら、そのようなプログラムが必要だろう。その後、市民が参加できるような、例えばファミリーランドに思い出のある人が集うような企画はどうか。写真やポスター、CM等の展示、昔の売店の再現、市内の小中学校の卒業アルバムの展示や復刻など。ファミリーランドのイメージを持って、新しい施設に来てもらえると、子どもだけでなく、その上の世代も集うだろう。そのような企画を定期的にしてはどうか。宝塚の歴史が積み重なって、アーカイブが常に施設で見られたらいいのではないか。

事務局：宝塚の文化芸術は先人あってのものであり、我々も歴史ある場所を、昔を知らない市民の方にも知ってもらいたいと思っている。1階のライブラリーコーナーに市の歴史が見られるようにする予定だ。

委員：昔は動物園があったので、やさしい動物と触れ合えたり、写真が撮れたりしても楽しい。またオープンまでに、絶えずこのような施設ができるという告知をチラシなどを用いて、歌劇や宝塚に来た人に配り続けた方が良い。センスの良い、コレクションできるようなもので周知するのも方法だと思う。

委員：市長もファミリーランドはかつて市民の応接間だった、そしてこれからの市民の応接間を作りたい、とおっしゃっていた。これが成功するかは、指定管理者に任せるのではなく、市の力量にかかっている。年間いくら赤字になるのか。

事務局：新聞にも年間1億2千万の赤字と書かれたが、施設の維持費、事業を行う費用、人件費は必ずかかる。われわれには、市民に喜んでもらうだけでなく、他市にも宝塚の魅力を発信して来てもらう、さらには宝塚に住んでもらうことを考えるなかで、宝塚市をどんな街にするかという問題

がある。その意味で収入をあげなければならないと思っているし、やり方次第では、この1億2千万の収支差を変えていくこともできる。これからは、自分で創り出す力が教育でも求められている。その中で文化芸術の果たす意義が今一度見直されている。宝塚市としてもそういった分野をさらに取り組まなければならないと考えている。

委員：赤字と考えるか投資と考えるか。医療や教育、文化は投資だと思う。市民の心に投資をするとプラス思考で考えた方が、楽しくいいものができると思う。

委員：最初の話にもあった、この施設がハレの場なのか、日常の延長の場なのかという点については、どちらを考えているのか。

事務局：どちらもということになる。2階はメインギャラリーの展示を中心に外から来てもらえる内容に、1階は普段から市民に来てもらえる場であったり、市民ギャラリーでの活動発表の場にしていきたい。また、メインギャラリーでの展示は、大阪や京都の大きな美術館でやる展示とは、規模的にも違うため内容も異なったものと考えている。市内の若手作家の市民への発表の場としても使用していきたい。

委員：2階はハイアートなどの見せ場もあるし、1階は市民の応接間でもある。ただそれがごちゃごちゃにあるといけけないので、きちんと整理し、市がマネジメントしていかなければならないだろう。

委員：具体的な2つのテーマへのアイデア出しへと議論を戻すと、先ほど開館した後にファミリーランドを思い出す企画の提案があったが、私は開館に向けてもファミリーランドや歴史を振り返りながら、そこにできる新しいもので何を指すか、ということを考えるような語り合いの場を用意してもいいのではと思う。

委員：たとえば市民サポーター制度はどういったかたちで募集し、どういった組織になっていくのか。

事務局：方向性を決めたくて募集するつもりだが、今は市と指定管理者のどちらが担うか等を検討中だ。既に自主的な活動をしているグループもいらっしやるので、活動の場を考えていかななくてはとは思っている。

委員：10年ほど文化イベントの手伝いをしてきて感じることは、お子さん向けの催しがとても多い。あとはシニア向けで、真ん中の層が魅力を感じるものが少ない。そういった方はいいものを求めて大体市外に出てしまう。そういう方が外からでも来てもらえるもの、大きなものを軸にして、それ

に付随した催し物を細かく市民サポーターと一緒にやらせてもらえたらいいのではないかと。退屈になると人は来なくなってしまいます。大きなものを軸にすることが大切だと思う。

委員：お金の部分では、市民の基金のようなこと、寄付をしたことがアートでもいいが何か残る形で募金を集うのは、ひとつの予算の作り方だと思う。目玉は今から準備しなくてはならない。例えば美術の点では、宝塚をイメージした作品を大物アーティストに依頼し、常時展示するとか、ソフト面では宝塚歌劇のOGは各所で活躍されているので、それらの方のスケジュールを押さえて、来年ぐらいからGF跡地をどうしたいかといった有料のトークショーや実際にオープンしてからもパフォーマンスを行ったりするなど。開館1年間は毎週末、大物も市民の物もやっているようにした方がいい。予算はかかるが、ギャラは来ていただいてから発生するものなので、こういった準備は市が進めておいてもいいかと思う。

事務局：OGさんは、隣の文化創造館で年2回ノスタルジック・コンサートを開催していて、ほぼ毎回完売御礼だ。またOGはいろいろな才能をお持ちの方がいるので、絵の上手なOGはいないか等聞くのもヒントかと思う。

委員：既にいろいろなイベントは行っているのだから、そういったものと良い意味で相乗りをしながら、そこに集まっている人に議論の輪に加わっていただけるような工夫をしていけば、じわじわと浸透していくのではないだろうか。すぐにすべての世代が参加できる施設になることは難しいが、時間をかけて根付いていけば、世代が上がってきて定着していくことで、50年後100年後宝塚の文化はこれだったんだと、みんなの共通認識がもてる、そのくらいの長い目で熱い思いを持ってやっていかなければならないだろう。

委員：市民ボランティアはやりがい、心のご褒美がなければならない。よく考えてやっていただきたい。

委員：理念を掲げて文化芸術を推進していくのだという思いには皆さんも賛同されていると思うが、まだ説明不十分なところがあるのではないかと。それは運営する市側が、いい意味で強引に言い切れるような裏づけや見せ方、表現の仕方を打ち立てること、開館時期を思うと打ち立て終わっていないとまずい時期になっている、ということが分かってきた。市はわれわれほか、様々な意見を取り入れながら、まずは早急に柱を打ち立てていただきたい。それと合わせてきめ細かな意思疎通を心掛けてもらえればうまくいくのではないかと。

(3) その他

事務局より現委員の任期が今年8月であることを伝え、現委員での会議が最後になるかもしれないことも確認し、散会した。

(4) 閉会

## ◎ 平成 29 年度（2017 年度）新規・拡充事業

## 【方向性 1】創る

- (1) 市立中央公民館 I 期オープンと II 期の予定について——活動拠点の充実  
12 月 2 日第 I 期開館
- (2) ベガ・ホール外壁等改修工事について——既存施設の改修  
休館：平成 30 年 1 月 31 日～8 月 1 日まで
- (3) 市内の民間文化芸術施設の情報収集について——民間文化芸術施設の利活用

## 【方向性 2】つながる

- (4) 松江市との文化交流について——姉妹都市、友好都市等との文化芸術交流  
10 月 14 日に姉妹都市交流 50 周年記念式典を松江市で開催、同月 29 日に山陰  
フィルハーモニー管弦楽団と宝塚市交響楽団による交流演奏会を実施。
- (5) ゲーデ管弦楽四重奏団ボランティアコンサート開催について  
——姉妹都市、友好都市等との文化芸術交流  
10 月 17 日にベガ・ホールにて開催。平成 30 年度も 10 月に開催予定。

## 【方向性 3】ともに楽しむ

- (6) 市子ども向けホームページのリニューアルについて  
——子どもを対象とした文化芸術事業の充実  
「たからづかキッズ」サイト上にキッズ向けイベント集約リンクを作成。
- (7) 自然とアートの秋フェスタ開催について  
——子どもを対象とした文化芸術事業の充実  
9 月 29 日～10 月 1 日に宝塚文化創造館、花のみち・さくら橋公園、文化芸術施設・庭園整備  
予定地にて、講演会・写真展・ダンス・ワークショップ等開催。  
来場者 約 2,000 名（期間累計）
- (8) 市民向けイベントにおける手話通訳者及び要約筆記者配置について  
——障がいのある人の活動機会の充実  
市が主催・共催するイベント等について、定員が 100 人以上のものに手話通訳者及び要約筆  
記者を配置、100 人未満のイベントは申込制で配置。  
文化芸術関連事業での実施数 4 件（全事業 61 件） 平成 30 年 2 月現在

## 【方向性 7】発信する

- (9) あおぞらコンサートの開催について——産官学民連携による事業の研究  
11 月 25 日に宝塚ゆめ広場にて、宝塚西高校吹奏楽部によるコンサートを開催  
観衆 約 150 名
- (10) 高校生美術部展の開催について——産官学民連携による事業の研究  
2 月 1 日～6 日に国際・文化センターにて開催。市内の公私立 6 高校美術部員による展覧会  
来場者 203 名

## ● 文化芸術振興計画と新しい文化芸術施設

### (1) 文化芸術振興の課題

#### ➤ 活動拠点の必要性

唯一の公立ギャラリーである国際・文化センターは、施設面での制約がありギャラリーとしての評価にはやや厳しいものがある。一方で、十分ではないが、ベガ・ホールのように音楽施設については整っている。

#### ➤ まちづくりとの連携

様々なまちづくりの手法がありますが、市民相互の自主性を尊重しながら、地域コミュニティにつながる文化芸術の持つ力を活かしたまちづくりを進めていきます。

#### ➤ 交流の拠点

交流の拠点として、多彩なジャンルで活動する住民や幅広い年齢層の住民が集い、文化芸術について情報交換や交流できる場、また、アーティストと住民が会うことで、交流を深める場としての役割が文化施設に求められている。

#### ➤ 長期的な視点に立った施策

新しい文化芸術を創造し、将来の世代にわたって進化させていくには、長期的な視点で取り組んで行く必要がある。また、商業や産業とも連携し、宝塚全体が活力とにぎわいで満ちたまちとなるような取り組みが理想です。

### (2) 新しい施設での文化芸術振興と今後の展開

文化芸術振興における将来都市像である「創造力を育む 文化芸術の薫り高い 宝塚」を実現していくため、新しい文化芸術施設においても7つの方向性を意識しながら事業を展開していきます。

## 【 方向性 1 】 創る

### 〔 活動拠点の充実 〕

新しい拠点づくりとして、ガーデンフィールズ跡地を「文化施設等整備用地」として取得し、周辺施設との融合を図りながら整備を進めていきます。

- ◇ 文化芸術施設及び庭園整備事業の基本コンセプト
  - ・ 宝塚らしさを継承し、未来物語の舞台となる創造の空間
  - ・ 文化芸術を通じて市民の新しい交流広場となる親しみの空間
  - ・ 子どもの驚きと家族の笑顔が絶えない感動の空間
- ◇ 文化芸術普及事業 …… メインギャラリーでの美術展示
- ◇ 創造活動事業 …… アトリエでの創作体験プログラムの展開

## 【 方向性 2 】 つながる

### 〔 地域コミュニティを醸成する環境の整備 〕

文化施設などでの事業等を充実し、子どもたちを始め多くの市民が気軽に文化芸術に触れる場として、また、市民の良好なコミュニティを育む場としていきます。

- ◇ 市民交流事業…様々な活動やイベントを通じて交流やにぎわいが生まれる場の提供
- ◇ 市民サポーター制度…市民との協働による管理運営を行うことによる新たなコミュニティの創造、既存コミュニティの活性化

## 【 方向性 3 】 とともに楽しむ

### 〔 子どもたちの文化芸術活動の充実 〕

無限の可能性を秘めた子どもたちが質の高い作品など優れた文化芸術に触れることは、感性を磨き、創造力やコミュニケーション能力などを養っていきます。

- ◇ 文化芸術普及事業…優れた文化芸術や多彩な分野の鑑賞機会の提供や、作品に関する講座などを開催し文化芸術に親しむ環境づくりを進める
- ◇ 創造活動事業…子どもたちや市民が気軽に参加し、参加者が自らが体験し、創造する事業の展開

## 【 方向性 4 】 伝える

### 〔 文化遺産の保全と継承 〕

市民誰もが愛するまち、誇りに思えるまちとするために、地域で受け継がれてきた伝統行事などを郷土の文化を知る機会としていきます。

- ◇ 宝塚ガーデンフィールズ跡地の利活用…昭和初期の旧宝塚植物園や昆虫館、遊園地、動物園として市内外の多くの人に親しまれ、賑わいにあふれた地を、人と人、人とまち、人と文化や伝統とがつながる、宝塚らしさとして未来へ継承する

**【 方向性 5 】 守る**

## 〔 宝塚らしい景観の共有 〕

文化芸術環境と都市景観の関係を深め、連携して啓発を進めることで、これからも親しみやすい宝塚らしい景観を保全していきます。

- ◇ 文化芸術施設及び庭園整備の考え方…既存の庭園を活用しながら、新たな魅力を付加した高質な庭園空間としたメインガーデンや、屋上に庭園を設け、緑に包まれた環境になじむよう整備

**【 方向性 6 】 発信する**

## 〔 情報の効果的な発信 〕

効率的な情報発信を行い、市民のライフスタイルに合った活動を容易に見つけることができる仕組みづくりなど、文化芸術がより身近なものになるように進めていきます。

- ◇ 情報発信事業…新施設での事業にかぎらず、市民の活動をはじめ文化芸術や植物に関する情報を収集、蓄積し、発信する
- ◇ にぎわい創出事業…文化芸術のみならず、市内の様々な地域資源にスポットを当てたイベントを施設全体で開催し、まちの魅力の発信・活性化を行う

**【 方向性 7 】 支える**

## 〔 文化芸術活動を支援する体制の整備 〕

文化芸術に関する専門的なスキルを有し、創造的な活動を様々な形で支援していく体制づくりを進めます。協働においても、市民の中にクリエイター的な存在となる人材を育成していきます。

- ◇ 活動支援事業…日頃の活動成果を発表する場を提供するなどの支援、本市にゆかりの芸術家や若手芸術家などへの様々な支援を行う